

## 令和4年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	新潟大学	主な交流先	インド・オーストラリア
事 業 名	インド太平洋地域の「仮想フィールド」を利活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム		
海 外 の 相 手 校	インド理科大学院大学、インド宇宙科学技術大学、コーチン科学技術大学、インド工科大学ルールキー校、インド工科大学カーンプル校、カーティン大学、マッコリー大学、ウーロンゴン大学、ペラデニア大学		

### 〔評価コメント〕

本事業計画は、自然災害、環境汚染等の課題解決に向け、グローバルに活躍できるフィールド科学人材の育成にあたり、「仮想フィールド」を活用するという、新規性がある意欲的なプログラムとなっている。インド太平洋地域の大学（インド、オーストラリア、スリランカ）との交流を通じ、各国、各地の課題をオンライン教材「仮想フィールド」として活用することで、事前に調査、分析、解決方策の立案を可能とし、さらに現地でのフィールド調査で検証するという、ハイブリッド型の新たなアプローチであり、高い教育効果や研究成果が期待される。アジア太平洋地域で重要性を増すインドにおいて、インド理科大学院大学、インド工科大学等理工系トップ大学5校を連携校としたことは評価できる。インドだけでも様々な自然環境を持ち、多くの環境問題も抱えている。また多くのテクノロジー人材を抱え、起業家やグローバル人材を多数輩出しており、交流を通じて学ぶものも多い。

一方で、9校の大学との交流にあたり、複数のリエゾンプロフェッサーが重要な役割を果たすことでスムーズな運営が計画されているが、多くの教職員、学生の参加を促し、全学的なプロジェクトとしての体制構築、推進も望まれる。また、仮想フィールド教材に関して、質の高いオンラインコンテンツの開発や、さらに現地でのフィールド調査にあたり、最新技術を積極的に活用して、教育効果を高めることも重要である。

このプログラムを通じて、課題に対する新たなアイデアやイノベーションの創出に繋がり、さらにはフィールド科学人材育成において、多くの大学で活用されるプラットフォームに発展することを期待している。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。また、本事業は、補助期間終了後は自立的に事業を継続することが前提とされていることから、継続的かつ発展的に質保証を伴った事業を展開されたい。